

卒業証書用の和紙づくりに挑戦 地元の伝統産業を受け継ぐ

REPORT 3

総領中学校の3年生13人が、12月5日から1週間、地元の伝統産業「和紙づくり」を行いました。

総領町では50年前まで、ミツマタ(三椏)やコウソ(楮)を原料とした和紙づくりが盛んでした。ふるさとの良さを知り、将来の総領町を支えていく人材を育てようと、20年前から毎年行っています。

和紙の完成までは、原料木の刈り取りから始め、のり状のトロロアオイという植物の根を混ぜて繊維を包み込むといった作業などを行い、最後四角い竹簾で紙をすくまでの15の行程が必要です。

生徒は初めての体験に戸惑いながらも、総領町紙すき研究会の皆さんの丁寧な手ほどきのおかげで、卒業

証書に使う手すき和紙を完成させることができました。



▲指導を受けながら紙をすく生徒

ベストナインの岡本選手が母校で指導 庄原格致高校女子ソフトボール部

REPORT 4



昨年の日本女子ソフトボールリーグでベストナイン賞を受賞した岡本由香さん(峰田町出身)が12月27日、庄原格致高校女子ソフトボール部を指導しました。

岡本さんは、平成19年、ユニバーシアード大会へ日本代表として出場し、現在は、日本女子ソフトボールリーグの太陽誘電の選手として活躍しています。毎年、夏と冬に帰省した際に、母校の庄原格致高校で後輩部員たちを指導しています。

この日は雪でグラウンドが使えず体育館での練習になりましたが、部員7人は岡本さんの指導を受けながら、真剣に練習に取り組んでいました。



▲後輩にバッティングの指導をする岡本さん

明るく元気に新年スタート 口和湯木青年会が元旦獅子舞

REPORT 5



▲ハートウイングで舞う

湯木釜峰自治会湯木青年部が1月1日、恒例行事「元旦獅子舞」を行いました。同青年部の部員約20人が、特別養護老人ホームハートウイングを訪問し、獅子舞やどじょうすくい、南京玉すだれを披露。入居者の皆さんは「新年を迎え元気をいただいた」と喜んでいました。

その後、地元の皆さんが集まった八幡神社へ移動し、1年間の無病息災を祈って獅子舞を披露しました。

湯木青年会は12年前からこの行事を行っており、1年間の元気を吹き込むために、一人暮らしの家や秋祭りなどでくじに当たった家などを回っています。

同青年会の松島昭彦さんは「この日のために猛特訓し、喜んでもらえた。今後も続けていきたい」と話していました。



▲雪上で舞う

日本の自然のすばらしさを再認識 第3回「東城の四季・出会い」フォトコンテスト

REPORT 1

東城町観光振興キャンペーン実行委員会と庄原市文化協会東城支部が主催する「第3回東城の四季・出会い」フォトコンテストが開催されました。

“次世代に継承していきたい東城町の四季折々の自然や人々との出会い”をテーマにしたこのコンテストに、県内外から自然部門38点、生活文化部門7点の合計45点が応募。その中から、最優秀賞1点、優秀賞2点、入選10点が選ばれました。

最優秀賞の「清爽 夏の帝釈峡」は、普段見慣れた帝釈峡の神秘的な美しさを捉えた点が高く評価された作品です。

●市内の入選者

- 穴光久夫さん(東城町)
- 立花敏之さん(三日市町)



▲最優秀賞「清爽 夏の帝釈峡」
酒井重敏さん(広島市)



▲優秀賞「水辺のやまぼうし」
猫田 薫さん(上原町)



▲優秀賞「雄橋」
大石正臣さん(広島市)

漫画家瀬尾公治さんが地元で恩返し 庄原青年会議所が漫画教室を開催

REPORT 2



▲瀬尾さん(右端)から指導を受ける参加者

高野町出身の漫画家瀬尾公治さんを講師に招いた「瀬尾公治まんが教室」が12月18日、母校の高野中学校で開催されました。

庄原青年会議所が主催するこの教室に、市内在住の中学生・高校生合わせて22人が参加しました。

瀬尾さんは、講談社の「週刊少年マガジン」で現在連載中の漫画「君のいる町」を題材に、ペン入れの方法や影を付けるプロの技法を、電子黒板で分かりやすく手本を見せたり、生徒一人一人に声を掛けたりしながら約3時間指導を行いました。

同青年会議所の三宅弘人さんは「快く受けていただきとても感謝している。ぜひ瀬尾先生のような漫画家がこの教室から続いていってくれればうれしい」と話し、瀬尾さんも「この教室をきっかけにライバルが出てきてくれたら」と思いを話していました。

瀬尾さんに最も近い席で指導を受けた金子崇文くん(口和中3年)は「すごい先生に直接教えてもらい感激した。先生のような漫画家を目指したい」と目を輝かせていました。



▲手本を電子黒板で示す

「あそびランド」へようこそ 比和で小学校と保育所が連携事業

REPORT 8



▲空き缶釣りに夢中の園児たち

比和小学校の2年生12人が12月20日、比和保育所で「あそびランド」をオープンしました。
「あそびランド」では、児童が生活科の授業で手作りしたおもちゃを楽しむことができます。
園児たちは、入り口でスタンプカードを受け取ると、空き缶釣りやボウリング、皿回し、びゅんびゅんごまなど、設けられた7つのコーナーに駆け出し、それぞれおもちゃの遊び方を先輩に教えてもらいながら楽しんでいました。
すべてのコーナーを回ってスタンプカードがいっぱいになった園児は、手作りメダルと折り紙をプレゼントされて大喜び。
「あそびランド」を運営した児童たちは「みんな来てくれてうれしかった」と満足そうでした。

息の合った虹色一斉放水 平成24年庄原市消防出初式

REPORT 9

平成24年庄原市消防出初式が1月8日、庄原市総合体育館で行われました。
当日は、消防団員721人、備北地区消防組合の署員67人が参加。厳かな雰囲気の中、優良表彰、感謝状の授与などが行われました。また、新入団員を代表して高野方面隊の藤長友樹さんが力強く宣誓し、固い決意を述べました。
上原清司団長は「市民の付託に応えるべく、教養、訓練に励み、技術を身に付け、災害の防止、被害の軽減に尽力してほしい」と訓示しました。
式典前には合併後初めてとなる一斉放水が、西城川

河川敷で盛大に行われました。
全方面隊で13台のポンプを配備し、クレーン車で吊り下げられた大小合わせて3つのくす玉に放水。多くの参観者が見守る中くす玉は見事に割れ、新春の光を浴びた水しぶきにはきれいな虹が架かっていました。



▲くす玉めがけて一斉放水

チャリティーのステージで熱演 歳末たすけあい芸能大会開催

REPORT 10

広島県共同募金会庄原支会と庄原市社会福祉協議会西城地域センターが主催する「歳末たすけあい芸能大会」が12月4日、ウイル西城で開催されました。
赤い羽根共同募金チャリティーを目的に毎年行なわれるこの催しは今年で35回目。西城地域を中心とする多くの団体が、歌や楽器演奏、舞踊など、練習の成果を発表する場としても親しまれています。
今回は個人・団体27組が参加。西城小学校が神楽愛好会の協力を得て、地元の伝統文化の継承に取り組んだ「西城っ子神楽～八重垣の能」が喝采を浴び、近年増加する野生動物の被害にいかにか立ち向かうかといった、身近な地域課題をテーマにした「劇団しあわせ家族」に

よる演劇が、会場の笑いと共感を集めていました。
当日寄せられた樽募金364,802円は、市内全域の福祉事業に活用される予定です。



▲西城小児童による神楽の舞

サンタに扮し楽しみながらクリーン活動 サンタプロジェクトin庄原

REPORT 6

庄原サンタプロジェクト実行委員会が12月23日、「サンタプロジェクトin庄原」と銘打ち、川北町須川でクリーン活動を実施しました。
サンタプロジェクトは、4年前に広島市で始まった活



▲サンタに扮しゴミを回収する参加者

動で、親子連れや社会人などがサンタクローズのコスチュームに身を包み、楽しみながらゴミ拾いする、「ゴミ」をテーマにしたキャンペーンイベントです。庄原の有志でつくる同実行委員会は、この活動の趣旨に賛同し一昨年から取り組んでいます。
参加した15人は、道沿いに投棄されていたビニールシートやポリタンク、家屋廃材など、軽トラック3台分のゴミ約2トンを、約1時間かけて回収しました。
同実行委員会代表の森本千尋さんは「不法投棄ゴミをどうにかしたいと始めた。サンタの格好をしてみんなで楽しく活動している。この活動が他の地域にも広がればうれしい」と話していました。



▲回収されたゴミ

新春のにぎわい「しょうばら九日市」 しょうばらぐるっとスゴロク登場

REPORT 7



▲学生が中心に製作した「ぐるっとスゴロク」



▲にぎわう店舗

庄原市本通、中央通、下本町商店街一帯で1月9日、新年初のしょうばら九日市が開催されました。
この九日市は、空き店舗の活用、市街地を活性化する目的で毎月9日に行われているもので、遠方からも出店者や来場者があり、にぎわいを見せています。
この日は新春らしく、大黒様の登場や甘酒の振る舞いもあり、なじみのお客さん同士で再会を喜んだり、新年のあいさつが飛び交ったりしていました。
また、観光ワークショップさくらプランニングが「しょう

ばらぐるっとスゴロク」を出展しました。
このすごろくは、庄原を舞台にしたすごろくで、遊びながら楽しく庄原を知ることができます。来場した小・中学生たちは、大盛り上がりで何度も繰り返し遊んでいました。
さくらプランニングは、県立広島大学の学生と社会人が一緒になって、観光振興や地域活性化に取り組んでいる団体です。このすごろくは今後も各種イベントなどで出展される予定です。